

**令和5年度
第3回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和5年11月9日(木)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第3回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和5年11月9日(木) 18:00～20:10
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 7名
大沼 富美雄、近藤 直志、今野 良和、齋藤 直美、佐藤 智信、
萬年 義憲、疋田 勝幸
- 欠席委員 7名
池田 玲子、板垣 一紀、齋藤 金廣、島崎 紅美、鈴木 結花、
高山 千代子、丸山 裕司
- 市側出席職員
- 〈藤島庁舎〉 支所長 成田 譲
総務企画課長 小林 雅人
市民福祉課長 出村 真一
産業建設課長兼エコタウン室長 齋藤 敬子
総務企画課課長補佐 後藤 春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優
総務企画課主査 村田 喜栄
- 〈企画部〉 政策企画課政策企画専門員 帯谷 友洋
地域振興課地域振興専門員 齋藤 眞一
- 〈教育委員会〉 教育長 布川 敦
教育部長 永寿 祥司
参事兼管理課長 清野 健
学校教育課長 今野 新一
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 坂井 孝朗
- 傍聴者 1名

○次 第

1. 開 会 （小林 雅人 総務企画課長）
2. あいさつ （萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長）
3. 説 明 ・ 協 議
 - （1）藤島中学校改築に伴う藤島地域における教育環境のあり方について
最終報告書に基づく提言について
 - （2）第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（大綱別）最終案について
 - （3）藤島地域振興計画の策定について

○開会

小林総務企画課長

ただいまより令和5年度第3回藤島地域振興懇談会を開会いたします。

初めに萬年藤島地域振興懇談会会長がご挨拶申し上げます。

萬年会長

今日は三つのテーマについて議論をいただきたいと思います。

一つ目は、藤島地域教育振興会議の最終書に基づく提言についてです。今後、中学校の改築計画等が具体的に進むきっかけになるものと思います。

二つ目は鶴岡市総合計画の中間見直しについてです。これまで議論していただきましたが、今回最終案の提示となります。

三つ目は藤島地域振興計画の策定についてです。来年度から5年間、鶴岡市総合計画の中間見直しの考え方に沿って進める計画の策定となります。

委員の皆様には、いわば最後の仕上げにかかる部分について議論をお願いすることになります。忌憚ないご意見を頂戴し、有意義な懇談の場となりますようご協力のほどよろしくお願いをいたします。

○説明・協議

(1) 藤島中学校改築に伴う藤島地域における教育環境のあり方について

最終報告書に基づく提言について

－説明－ 藤島地域教育振興会議 委員長 近藤 直志

教育長 布川 敦

藤島庁舎支所長 成田 譲

萬年会長

初めに協議 1、藤島中学校改築に伴う藤島地域における教育環境のあり方についての最終報告書に基づく提言について、藤島地域教育振興会議の近藤直志委員長から最終報告書のご説明をお願いいたします。

藤島地域教育振興会議 近藤直志委員長

藤島中学校改築に伴う藤島地域における教育環境のあり方についての、藤島地域教育振興会議最終報告書に基づく提言について、委員を代表し説明させていただきます。

藤島地域教育振興会議の検討状況につきましては、前回10月4日に開催されました第2回藤島地域振興懇談会において、それまでの状況等を経過報告として、事務局から報告して頂きました。その後、10月17日に最終となる第7回会議を開催し最終報告書について

了解を得ましたので、その報告書に基づき4つの提言を中心にご説明いたします。

表紙をめくると、裏側に目次が記載してあり、報告書はそこに記載の5つの項目で構成されています。前回の地域振興懇談会で説明させていただいた部分は目次の「1. はじめに」から、「4. 藤島中学校改築に伴う教育環境（学校施設等のあり方）についての検討結果」の「(3) 保護者説明会、保護者アンケートの結果」まででございます。

今日はその次の「(4) の藤島地域教育振興会議としてのまとめ」を中心にご説明いたします。なお、その下の資料編につきましては、すでに公表されている会議資料等で、市のホームページでも閲覧できることから、この場では割愛させていただいております。

それでは、報告書の内容説明に移ります。

1 ページ目には「はじめに」ということで教育振興会議の設置経過、それから、令和4年度の状況と今年度の取り組みを踏まえ、最終報告書を提出する旨の記述をしています。

2 ページ目には概要として、本報告書のポイントを提示しております。

3 ページから6 ページまでには、藤島地域における教育環境について、学校施設の老朽化、児童生徒数の減少と鶴岡型小中一貫教育導入の3点について記述してございます。報告書を初めてご覧いただく方にとっても有用な情報と考え、章立てをしております。

7 ページ、4 の中学校改築に伴う教育環境のあり方についての検討結果は、本報告書の本論に当たる部分でございます。「(1) 令和4年度の検討結果」と、8 ページからは今年度を実施した地区説明会と保護者説明会や保護者アンケート、それぞれの結果について対応をまとめてございます。ここまでは前回、報告した内容です。

その次の11 ページからは、報告書の核心部分となります、藤島地域教育振興会議としてのまとめを記述してございます。保護者説明会と保護者アンケートの結果を総括し、それを踏まえた第6回会議での各委員の意向を確認して、13 ページの藤島地域教育振興会議としてのまとめで各委員の意見の総括し、それを受けての四つの提言をまとめたところでございます。

13 ページの提言の前文には、教育振興会議をはじめ、地区説明会や保護者アンケートを通して、委員の意向と見解を確認したところ、各小中学校を一つにまとめて、小中一貫校である義務教育学校を整備すべきとのご意見が大勢でした。その一方で、小学校と中学校は区別すべきではないかという意見の方もありました。また、小中一貫校のデメリットについては慎重に考えるべきで判断がつかないという意見もございましたので、そのことを併記しております。

また、義務教育学校を整備するためには、小学校中学校の学校再編となり、統廃合の可否に係る地域の理解と合意が必要であることを記述しつつ、最終報告として記載した四つの提言を提示しているところです。

それぞれの提言についてご説明申し上げます。

まず提言1として、藤島中学校改築に早期に取り組むこと。これについては様々な機会において、学校施設の老朽化が進んでいることが広く認識され、藤島中改築に早期に取り

組んで欲しいとのご意見を多く頂いており、藤島地域の方の大方のご意見として判断しても差し支えないと認識し、学校改築の決定を促すために提言の最初に掲げたところです。

提言 2 は、藤島中学校改築にあたり、小学校中学校施設の一体型の小中一貫校(義務教育学校)の整備を基本とし、この対象となる各学校区の検討を加速することです。保護者のアンケート等の結果を踏まえた第 6 回会議において、小中学校一体型の義務教育学校を整備すべきといった意見が大勢でしたので、それを踏まえた提言となっております。義務教育学校として整備するためには、学校敷地等の規模等の要件を決定する必要があり、藤島地域各小中学校の再編、統廃合の可否について、各学校区における検討と合意が必要になるわけです。そのために各学校区の検討を加速することを提言の二つ目として掲げたところです。

それを受けて、提言 3 は各学校区の検討組織を設置して、整備スケジュールに応じた地域合意を得ることを掲げたところです。藤島中学校の校舎の老朽化については喫緊の課題であり、早期改築に向かうためには提言に基づき義務教育学校の対象校を決定する必要があります。整備スケジュールにつきましては改めて精査する必要があると思われますが、再編統廃合について今後十分協議した上で、速やかにその可否を決断いただくことが必要であるため、整備スケジュールに応じたという文言をつけたところでございます。

最後の提言 4 としては、これまで教育振興会議として小中一貫教育及び小中一貫校の推進にあたり様々な会議を開く中で、地区説明会、保護者説明会を行い、アンケート等も取らせていただきましたけれども、そこでは課題や要望、不安等が随分と出されました。それらにつきましては、今後しかるべき組織での協議検討を加え、適切に対処することを掲げました。

鶴岡型小中一貫教育と小中一貫校整備については、鶴岡市において初めてとなる先駆的な取り組みになることから、イメージを持ちにくい部分もあるために、保護者から様々な課題、要望不安等が寄せられています。

それらにつきましては、適宜洗い出しと整理を行いながら、これから様々な行政機関、或いは地域の各種団体など、しかるべき組織において協議検討を加えて対処することを提言するものであります。

以上が、4 つの提言の趣旨でございます。

なお、提言の下の部分には、本日の藤島地域振興懇談会に報告させていただくとともに、学校設置者である鶴岡市教育委員会においても今後の関連計画や事業等の検討材料として取り扱ってもらうよう記したところでございます。

以上、藤島地域教育振興会議において、昨年 10 月から今年の 10 月までの 1 年間にわたり開催した 7 回の会議で合意を終えた報告書と提言について説明を申し上げます。

藤島地域振興懇談会の委員の皆様におかれましても、ぜひ今後の藤島地域の教育振興にご理解とご支援をいただきたく、報告とあわせてお願いを申し上げ、説明を終わらせていただきます。

萬年会長

続きまして鶴岡市教育委員会の布川敦教育長からごあいさつがございます。

布川教育長

ただいま、藤島地域教育振興会議の近藤委員長様から最終報告書に基づく4つの提言についてご説明をいただきました。

これを踏まえまして、ご挨拶を申し上げたいと思います。

藤島地域教育振興会議の皆様には、藤島中学校改築に伴う将来の藤島の教育環境はどうあるべきかという大変重要な課題に向き合っていていただき、本当に1年間にわたる慎重審議を踏まえ、最終報告書としてまとめていただきました。深く感謝を申し上げます。

藤島地域振興懇談会の委員の皆様もご承知だと思いますけども、藤島中学校の老朽化は喫緊の課題であります。改築に向けましては、地域の皆様、保護者の皆様をはじめ、市議会議員の皆様など、多くの関係者のご理解がなければ、先に進めることはできません。

教育委員会といたしましても、この4つの提言を尊重し、多くの皆様へ丁寧な説明を重ねながら、藤島中学校改築に伴う新しい学校の姿が描けるよう努めて参りたいと考えております。

藤島地域振興懇談会の委員の皆様からも、この提言について忌憚のないご意見を頂ければと思いますし、今後とも藤島地域における教育振興についてご支援を賜りますことをお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

萬年会長

続きまして藤島庁舎の成田支所長より一言お願いをいたします。

成田支所長

これまでの藤島地域教育振興会議の運営にあたりまして、藤島庁舎を代表して一言お話をさせていただきます。

まずは1年間にわたって熱心にご議論いただいた近藤委員長はじめ委員各位に感謝を申し上げます。また、会議開催に加えて、地区説明会、保護者説明会、さらにアンケート等に取り組んで頂いた教育委員会の担当の皆様にもお礼を申し上げたいと思います。

今藤島には、将来の地域の教育を左右する二つの大きな節目が同時に到来しているという認識であります。一つ目は藤島中学校が築50年以上経過し、1日も早い改築が藤島地域の念願であると同時に、これは半世紀に1度の大変重要なプロジェクトになるということです。もう一つは、約30年間続いている小中連携教育というシステムを、不登校やいじめの増加という現代的な教育の課題解決にも寄与するシステムとして、小中一貫教育に発展進化させようとしていることです。

地域教育振興会議の委員の皆様からはこの歴史的な節目を見据えながら、将来の藤島の子供にどのような教育環境を作り上げていくべきか、地域や保護者の声なども考慮し、議論を重ねていただきまして、今般、この提言をまとめていただいたところです。

老朽化した藤島中学校を小中一貫教育という教育システムに対応する新しい学校の形、いわゆる小中一貫校を基本として整備すべきという最終提言に対し、この学校に組み込む小学校、中学校をどうすべきかについて、今後は各地区における検討と地域合意形成が図られるかどうかが一番重要になって参ります。現在建設中の朝暘五小の後に速やかに藤島中学校の改築に進むためには、地域としても一番の課題となっていくところになります。

ぜひ、地域振興懇談会の皆様には、各小学校区における検討が進み、地域の総意としてまとまるようにご支援をいただき、保護者の意向をさらに明確にした上で、前向きな合意が得られますように後押しをいただけるとありがたいと思っております。

私たちの多くは、高度経済成長と人口増加社会の中で成長しており、常に近くに子供の姿が見え、活力溢れる、そういった心象風景をずっといただきながらこれまで来ているわけですが、今は成長の鈍化と少子高齢化に抗えず、地域がどうなっていくのか不安と心配に直面している状況です。

今回の一貫校整備の提言は、我々が経験したスケール感での教育環境が最良という地域の皆様の賢明な選択の表れでもあると考えています。将来の藤島の子供たちに関わる教育環境が変化しようとしている今、大人である私たちがその変化に柔軟に勇気を持って対応し、課題があれば、前向きにその課題解決に取り組み、よりよいと思える環境を子供たちに残していければ、その未来の中で子供たちはたくましくしなやかに成長し、やがてこの藤島を支えていってくれるものと自分は考えているところです。

地域の皆様の思いと情熱を信じ、また地域の子供たちの力を信じて、地域合意と今後の作業に向かって参りますので、皆様のご支援とご協力をお願いします。

最後になりますが、本提言に対して率直な感想、ご意見等いただければありがたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

萬年会長

ただいま近藤委員長から最終報告に基づく提言がありまして、それを受けまして、布川教育長と成田支所長からお話を頂きました。

令和3年度の当地域振興懇談会におきまして、藤島中学校の改築が継続的な話題となりまして、藤島中学校改築に合わせて、東栄小学校、それから渡前小学校も一緒に考えるために、別の枠組みで早急に検討してもらいたいと要望したことが発端となりまして、この令和5年10月までの1年間にわたりまして、教育振興会議の委員の皆様から慎重にご審議いただき、報告をまとめていただきました。本当に感謝申し上げます。

委員の皆様から改めて今後のため、ご質問、ご意見を頂きたいと思います。

委員

ただいま近藤委員長から最終報告ということでご説明がありました。また教育長、支所長の方から、それを受けての、現時点の考え方が示されたと思います。

最初に 14 名の振興懇談会委員の半数が欠席ということは、非常に残念に思っております。藤島地域にとって、中学校改築に伴っての教育問題というのは最重要課題です。今日の懇談会の委員の考え方が、今後の藤島の教育のあり方について大きく影響する大変重要な会議だと思って出席をいたしました。それぞれ事情があって欠席されているわけですが、半数の方しか出席していないことは、残念だと率直に思いました。

私は令和 3 年・4 年度の振興懇談会会長という立場で、これからの中学校の改築に伴って藤島の教育はどうあるべきかということで、今の教育振興会議の設立に向けて取りまとめをお願いした立場であります。近藤会長はじめ委員の皆さんには大変ご苦勞をかけましたと私からも感謝申し上げたいと思います。

結論から申し上げますと、今の藤島の教育の課題は、何が問題なのか、或いはこの課題を受けて問題を受けてどうすればその課題が解決できるのかというような論点・視点で議論していただいたと思っておりますので、基本的に最終報告の提言については、全くその通りだと思っております。

ただ、国も異次元の少子化対策と言っておりますし、教育長も先ほど新しい形の鶴岡型の教育のあり方ということをおっしゃっておりました。教育についての内容はよくわかりませんので、余計なことは申し上げませんが、ただ新しい学校をつくる上でぜひ子供たちが行きたいと思えるような、そういう学校を作っていただければと思っております。

私は、若いときに海外で生活した経験があります。外国の学校のグラウンドは芝生が多く土のグラウンドはほとんどありません。子供たちが芝生のグラウンドに出て、遊び、交流するのが普通です。新しい学校のグラウンドはそういう形にできないかと考えております。湯野浜小学校には芝生のグラウンドがありますが、これは砂が飛ぶ特殊な条件の場所ですのでそうしたという話は聞いておりましたけれども、非常に良い環境だと思っておりました。議会でも質問したことがあり、なかなか実現できなかったことでありますが、以前に大泉保育園の記念行事で校庭に芝生を張ることもありましたので、少しずつそういう方向に行くのかなと思っております。ぜひ新しい学校はそういう方向に進めていただければと思っております。

幸い藤島地域の小学校と中学校は並んでおりますので、一つのグラウンドにするのか、サブグラウンドを一つ設けるのかは、これからの課題、検討によりますけれども、ぜひ一つは小さくてもいいので、低学年の子供たちも含めて、小学校の子供たちが芝生で遊べるような環境を作ってもらいたい。

それから遊び場の問題がいろいろ議論されていると思います。我々の頃はブランコ、シーソーや鉄棒とかで育ってきたので、今の子供たちは全く違う視点で遊び場というものを捉えていると思っております。

三川町にはテオトルという子供たちの遊ぶ場所もありますし、こんなことを言うと怒られるかもしれませんが、三川町で造れるのなら、旧藤島町にだって造れると思うんです。これは鶴岡市と一緒にしたので簡単にはいかないと思うんですけども、児童館の建設などと抱き合わせながら子供の遊び場を文教区域の中に整備して頂ければと思いますので、検討の中に入れていただければと思います。

最後に、今給食センターの整備計画について、市当局でいろいろ議論しております。以前の学校給食は自校給食でやっていたわけです。センター方式に切り替わって相当の年数経っておりますけれども、新しい学校建設に合わせて、自校給食を何とかできないかなと思っております。藤島には供給する体制として「サンサン畑の会」という組織があり、有機栽培とかもやっております。直営にするか、民間にお任せするかは議論があるところだと思いますけれども、ぜひ一つ、特色のある学校運営の一つに自校給食を検討していただけないかなと思っております。

夢みたいな話をしましたが、ぜひ汲み取っていただいて議論の中に組み入れていただければと思います。

萬年会長

ただいまグラウンド整備と遊び場の問題、それから、自校給食の点について検討をお願いしたいという要望がありました。他にどなたかご意見ございませんか。

委員

児童・生徒数の減少について、小学生は10年後には30%減少で中学生は令和16年度、10年後には44%に減少するという記載があるようです。これを考えると10年後にはおそらく、450人から400人くらいのクラス、児童生徒数になるのかなと思って見ておりました。一学年40人だとすると、低学年だと40人を切るだろうというところが見えてきます。

それを踏まえて、学校の改築にあたりどのくらいの予算を使うつもりなのかを教えてください。自分は商売人なのでコストパフォーマンスがすごく気になるんです。

どれだけの予算を使って、10年後には400人を切るような学校を作る検討をされているのか教えて欲しいなと思います。

清野教育委員会参事

ご質問いただきましてありがとうございます。

例えば、建築予算の用途ということですが、いろいろシミュレーションはしておりますけれども、校舎の規模とかの具体的な数字をまだ置いていない状況でございます。ただ、学校の規模としては小学校と中学校が一緒になりますので、鶴岡市内の中でも最大規模の学校になるだろうなと思います。

ただの学校の教室だけでなく、様々な付加機能もございますし、体育館や武道館もございますので、かなり大きなものになるだろうと考えておりますが、まだ予算については、はじいていないということでございます。

ただ、建設業界もなかなか厳しいということもありまして、朝暘五小で40億円台で進めておりますけれども、そういったことは上回っていくだろうなということの想定をしております。

委員

ありがとうございます。合併当初はおそらく一学年2クラスずつ、もしくは3クラスにもなるかもしれませんが、10年後には全クラスが1クラスになる。全学年が1クラスになっているというのも想定した上で検討していただければなと思って聞いておりました。

委員

委員の学校給食の質問、私も同じことを思っております。国でも地産地消を食育として述べておりますので、地元で生産された物を美味しく食べてもらうための施設を今後も位置付けしてもらいたいと思っています。

また、この報告書に関してはもっともだと思いますが、今後の地域と子供たちの関わり方や地域文化などが載っていないと感じました。祭りや獅子舞は、いろいろな子供たちも参加しての行事ですので、いかに学校が終わってから地域の行事に参加できる状況を作れるかということを今後話し合い考えてもらえたらと思っています。

清野教育委員会参事

自校給食を、というご意見でしたけれども、これから具体的な学校の設計をしていく中で、地域の皆さんから改めて様々な意見交換をしながら取り組むことになろうと思います。改めてそういったことも内部で検討する機会があるかなと思っておりますけれども、現状で結論めいたことはちょっと申し上げられないことをお許しいただければと思います。

あと、その地域の伝統文化というようなことは、ただいまの教育振興会議の中でも多数ご指摘をいただいております。今後の学校整備に向けて、そういったものをどう守り保存していくのかというようなこともセットで、新しい学校のあり方を検討して参りたいと考えておりますので、その際は改めて、皆さんからご協力・ご意見・ご理解をお願いしたいと思います。

委員

私も藤島教育振興会議と一緒に協議をしてきた委員なのですが、会議の中でもどうせ減

っていくとかではなく、藤島で子育てをしたくなるような、どうしたら子供が増えるかという方向で考えていく案を出し合っていけたらいいと思っています。人が集まるような、子育てするなら藤島で、になるといいなと思っているところです。

萬年会長

今年の夏だったと思いますけれども育成協議会有り、会議に出席させていただきました。その中で、子供会のモデル地区の指定をして活動していただきましたが、子供たちが減少して子供会が組織できなくなるという課題が出てきました。

私が会長をしている駅前町内会には24名の子供たちがおりますがすべて児童で、児童が子供会の中心的な活動しております。中学校になりますと部活や受験もありますし、いろんなことがありますので、子供会への参加はしていません。ところが子供会の人数が減ってきていますので、これからは中学生を巻き込まないと子供会を組織することができないんじゃないかと。この間子供会の役員会の時にそういう意見が出されましたが、これはどこの子供会においても課題だと思います。ある地域では中学生1人しかいないとか、いろんなことがあります。

今後私が期待するのは、小中一貫校になった時に、子供や小学生だけでなくて中学校も含めた形でも地域での活動が活性化して、子供たちが育てやすい環境を作ればいいと期待感を持っているところでございます。

皆さんからご意見をいただきました。最後、近藤委員長からお願いをいたします。

藤島地域教育振興会議 近藤直志委員長

教育振興会議の中でも、子育て世代から選ばれるような学校をぜひ作って欲しいということで、いろいろな要望が出されました。例えば、体育館を二つ作って欲しい、あるいは高齢者も学校に普段居れる場所を作って欲しいとかの要望もございました。

地域の皆さんが一番不安に思うのは、例えば学校が統合したときに、地域に子供たちの姿が見えなくなるんじゃないかといったことです。少子化の傾向は止まらないだろうけれども、地域で子供たちを育てる環境づくりを進めていかなければいけないということで、今、長沼地区が一生懸命、様々な取り組みをしております。月に何回か、小学校から帰ったらまっすぐ活動センターに行って様々な活動を一緒に行うことで、地域の方々も顔を見て子供の名前を覚えたりする形になっています。それから伝統文化としてけん玉等をやっていたわけですが、それらについてもけん玉大会をやったり、運動会にけん玉を取り入れたりしてそういった文化が絶やされないよう様々な工夫をしています。

また、これまでどちらかというと学校にすべてお願いしていたことを地域でも考えて取り組んでいく必要があるんじゃないか。獅子舞につきましても、学校の教育活動の中で何とか取り入れられないか。様々な意見の中では、総合的な学習ということで地域のことを学んだりする時間が取れますので、授業の中やクラブ活動で取り組んでいけば、やりよう

によっては継続して取り組んでいけるんじゃないか、といった意見等も出されました。

ただ、そういったソフト部分については、学校教育課程の中で考えて取り組んでいくことなので、その先のことについては学校の先生方にお任せするしかないと思っています。

ただ、鶴岡市の小中一貫教育の方向としては、コミュニティスクールと一体で小中一貫教育を進めていく、つまり、学校運営協議会という会を中学校区ごとに設置し、地域の方々の要望を直接学校に伝えられる機関が設置されるわけですので、そこでいろんな要望も地域の要望も、出していけるんじゃないかなと思っていますところでは。

それがうまく機能して、地域と一緒になった教育が藤島地域で進められていったらいいのかなと期待しているところですので、ぜひその方向で頑張っていただければなと思っています。

永寿教育部長

はい、ありがとうございます。今、委員の皆様から本当に様々な意見いただきました。

本当に子供たちが行きたくなるような学校という中で、具体的な三つの提言を頂きましたし、或いは給食と地域との関わり、地域で子供を育てていくなど様々な視点をいただいております。

提言の方にもあるように我々としても、これから藤島にできる学校はこういう学校だよね、こういう学校なんだって、本当に子供たちが来たくるように地域としても期待できるよね、まず、そのたたき台となるイメージを早くお示しするようにして、地域の皆様、そして保護者の皆様に丁寧に説明していく。そこがまずスタートだと思っています。

今日も本当に貴重なご意見を色々いただいておりますので、そういったことも踏まえながら、さらに地域の方々に説明して、議論を深めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

萬年会長

今、さまざまなお意見をいただきました。

藤島中学校改築に伴う課題は山積しておりますけれども、藤島中改築に早期に取り組むために、各学校区・各地区において、お考えをまとめていただきまして、それを集約し、藤島地域としての総意を確認する必要があるかと思います。

藤島地域教育振興会議の提言を受けて、成田支所長からもお話あったように今後、藤島地域として検討組織を立ち上げるとともに、鶴岡市教育委員会に提言の尊重を求めていくことでこの会議の総意としてよろしいでしょうか。

(一同、はいの声)

そういうことで教育委員会の方にはよろしく願いをしたいと思います。

懇談会の委員の皆様におかれましても、藤島地域の今後の教育環境のあり方に向けて1人でも多くの住民関係者の声が集まりますように、ご尽力を賜りますようによろしくお願い

いをいたします。

(2) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（大綱別）最終案について

－説明－ 藤島庁舎総務企画課 後藤 春雄

【説明内容省略】

萬年会長

後期基本計画の最終案について説明がありました。本日が藤島地域振興懇談会としては最後の協議になるかと思います。ここでは、主に総合計画の文章案についてお気づきになった部分についてご意見をいただきたいと思います。

委員

特別意見ということはございませんし、これまで訂正と見直しということで、庁舎の皆さんは大変ご苦労したと思います。

わくわく感、期待感をいまいち感じないのは私だけかなと思っております。藤島がいまいち元気ないんじゃないかと多くの皆さんから言われる機会があります。例えば、温海地域は非常に活発に地域活動を展開しています。羽黒は出羽三山を中心にして頑張っている、櫛引はフルーツを中心にして取り組んでいる。藤島は農業中心でやってきたという点もあったかもしれませんが、考えてみますと国道345号線沿いにスタンレーを中心に農工団地を作って目覚ましい発展をしてきました。あの時代の藤島は非常に勢いがあったんですけれども、今は落ち込んでいるんじゃないかと言われているんです。

こうした中で、後期の基本計画には期待感というか、藤島がこういうふうにして変わっていくっていうものがいま一つ無いことは残念だと感じました。

それでも、地域振興懇談会の中で文章表現や足りない部分とかを意見交換してまとめた計画です。まずは支所長を先頭に良い意見を出してもらって、他の地域に負けないう頑張ってもらおうことだと思います。

成田支所長

わくわく感がないとのご指摘でしたが、藤島の取り組みの特徴としては、「Hisu 花(ヒスカ)」、これはやはりワークショップの皆さんの力が大きいです。「ぼっぼの湯」の再スタートと今の頑張りについては長沼地区「ぼっぼの湯運営協議会」、これも地元の力を非常に借りています。さらには元気食楽部によって、藤島地域の米が藤島元気米としてAコープで販売されておりますが、この秋からはふるさと納税の商品にもラインナップになりました。

庄農との連携事業もそうですけれども、庁舎としては、決して役所だけでできない、地域

の皆さんと一緒に取り組む事業、地味ながらも地域を盛り上げていく活動を着実に進めていきたいと思っておりますし、こういった庁舎と市民の皆さんが協働して取り組む地域づくりこそが、藤島のカラーになっていくように事業を進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

萬年会長

校長先生から、庄農の関係でいろいろと事務局からも説明がありましたけれども、何かご意見ありますでしょうか。

坂井孝朗庄内農業高等学校長

平成 26 年から連携事業をスタートしてここまで 10 年ほど、物心とも非常に大きな支えとして協力頂いてきました。ここ何年かで学校の成果も出てきているので非常にありがたいと思っております。

先ほど後期計画のところの文言もありましたけれども、今年度から県の方でも新しく産業系の高校へのプロジェクト事業として、我々の連携事業をあたかも取り入れたような形で、14 の高校がスタートしていることでは、これまでの連携をいただいている部分が大きな一つのモデルとなっているのではないかと考えているところです。

冒頭の方で、今後の藤島中学校のことも出て参りましたけれども、本校の在籍数の 5 人に 1 人は藤島中学校出身でございます。今後、人数が減っていく予測を見ると、藤島の新しい小中一貫校が今後の庄内農業にも数年後には影響してくる部分として、非常に大きな関心を持ちながら見させていただいているところであります。

そういった意味では県立高校ではありますけれども、何かしらこれまでの連携の素地を生かしながら、ぜひ今後もしっかり協力してやっていければありがたいと思っています。

明るい話題として提供できるものとして、多くが藤島中学校出身の我が剣道部は、43 年ぶりに県の新人大会で優勝しまして、夏のインターハイの予選では決勝で残念ながら負けて準優勝でしたが、これも藤島中学校出身の生徒・職員の頑張り貢献と思っております。藤島地区あつての庄内農業ということで、今後ともぜひご協力含めてお願いしたいと思っていますところす。

委員

ぽっぽの湯は、おかげさまで入浴者数は伸びております。そして今回、スケールの除去ということで、10 年ぶりと思いますが源泉の改良工事を行っております。温泉というのは井戸が詰まってくると湯量が少なくなるわけですが、それを改善するための工事を今行っているところです。

あるお客さんから、ぽっぽの湯の温泉は泉質が良いから来るんだよとの声を頂きましたが、そういう自慢のお湯ですので、これを絶やさないように大事に使いながら地域の宝物

として活用したいと考えています。

また、ぽっぽの湯にも経済効果があり、おおよそ1億から1億1千万～2千万くらいはお金が動いているはずでして、長沼にそういう産業があるということです。

それから、隣町の「田田」や「町湯」は町が積極的に力を入れており、施設の方もかなり綺麗になっております。ぽっぽの湯を見ますと老朽化が進んでおりますので、庁舎にはもう少し力を入れて予算獲得をお願いしたい。今あるものをしっかり直していかないと、後から大きな工事になります。

昨日も休みの中、職員と一杯飲みました。なかなかコロナのおかげで飲む機会がなく、本音が出されない中でも、みんながぽっぽの湯を愛していて、自宅の湯のような思いがあって努力しておりますのでよろしくをお願いしたいと思います。

萬年会長

そのほかにございますか。中身、特に文言の表現でちょっと違うんじゃないかと、そういうところも気付いた方おられますか。また、これに対する意見に関しては要望があるかもしれませんけれども、本文に関してはよろしいですか。

この件に関しては、これまでの検討を修正した形で今提案しておりますので、意見がなければ2の協議は終わります。本日頂戴した意見もありますので事務局から作業を進めていただき、2月上旬に総合計画審議会から鶴岡市長の方に総合計画の答申を行う予定で進めさせて頂きたいと思います。

本日の懇談会で出された意見の反映、またこれから若干修正もあるかもしれませんが、それらを反映・修正して答申させて頂きますが、その修正の確認等につきましては本懇談会会長にお任せ願うという形でさせていただければと思いますので、いかがでしょうか。

(了承される)

そういうことで進めさせていただきます。2については以上で終わります。

(3) 鶴岡市藤島地域振興計画の作成案について

－説明－ 藤島庁舎総務企画課 齋藤 優

【説明内容省略】

萬年会長

今ご説明あったような状況ですけども、これまで検討頂いた総合計画中間見直しの考え方に立って検討していくということです。振興計画の検討については、議論をゼロから始めていくのではなくて総合計画中間総合計画の中間見直しの考え方に沿って進めていく計

画の作成になるかと思います。

具体的な施策についてはこれからになるわけですが、今ご説明があった中で、何かご意見あればご発言願います。

来年度の予算要求は、基本この計画でいく形になるわけですが、そうするとこれは、今後5年間の計画についてはこういう方向で進めていってもらってはという意見になりますか？

齋藤総務企画課地域まちづくり企画調整主査

来年度の予算要求の事業としては、まちづくり未来事業19事業を要求しておりますので、当然この部分を踏まえた形の施策を立てる必要があると思います。来年の要求はできなかったけれども、今後広がりのあるような事業を展開することはあると思いますし、社会情勢に合わせて今後考えられるようなことは、この計画策定の段階で、ある程度先を踏まえて、この具体的な施策で施策立てをする必要が出てくると思います。

萬年会長

来年度は、予算要求の時期がほとんど終わりにきている状況ですので、これで行かざるをえないと思うんですが、それ以後の計画についてこの枠組みの中で、どのような具体的な施策がとれるか、あるいはとって欲しいことがありましたらお聞かせ願いたいと思います。

例えばさっき、委員からぼっぼの湯の活性化というところで長寿命化を図る云々という意見がありましたので、その辺を踏まえた形のご意見は何かありますか。

委員

令和4年度の懇談会で商工業に関しての記述が一切無いということで、また前回前々回も商工会のことが載っていないとおっしゃっていましたが、今回も商工業のことに関しては無いのかなと思って見ていました。

ぼっぼの湯もそうですし、地域の商店、工業団地もありますけれども、そういったところの充実も図っていく必要があると感じたところです。

それから、農業振興の部分に関して、園芸作物拡大プロジェクトをこれまで進めていたけれども、枝豆や路地ネギなどの活性化・発展について、自分の肌感覚ではちょっと感じられずにあります。実際にどのような成果があったのか、また、同じテーマで園芸作物のプロジェクトということで載っておりますけれども、今後どのようにして新しい展開を考えるのかの2点についてちょっと教えていただきたいなと思います。

齋藤産業建設課長

園芸作物のプロジェクトは、総合計画の記載の体系の中では、具体的には3ページの④

になります。新旧対照表をご覧くださいまして、先ほどの資料(2)の資料の資料2-2の方で、横A4版の新旧対照表の中の3ページです。こちらの④ 農業経営の安定化に向け、非主食用の新規需要米の生産拡大や大豆などの土地利用型園芸作物を振興し、水田を活用した稲作との複合経営を推進しますということで、中間見直しの中では、このようなところで取り組んで参りたいと考えております。

枝豆、それからネギの成果ですが、現在、庄内たがわ農協では、独自に枝豆のセンサーを導入しブランド化を図っております。それから、ネギにつきましては、藤島農産物元気食楽部の方で特別栽培のネギの実証などで生産拡大に向けて取り組んでいるところです。

さらに庄内たがわ農協では土地利用型作物として大豆の生産拡大に向けて、渡前にあります南部乾燥調製施設、いわゆる南部ライスセンターに大豆の乾燥調製施設を新規に建設している状況にあります。

農業経営の安定に向けましては、藤島地域は農業が特徴となっておりますので、こちらの方を推進していくということで考えております。

藤島農産物元気食楽部を中心に、いろいろな技術の習得、それから新たな取り組みを展開して参りたいと考えているところでございます。

成田支所長

5年前の枝豆というのは、一時期JAたがわで、枝豆の調整施設を作るといった動きがあり、これに呼応した計画だったと思います。残念ながらその計画は実現しなかったもので、後期に向けては少し表現の修正が必要かと思います。ネギについては、特裁ネギでの栽培を元気食楽部で実証していて、実際に特裁の販売を実施している生産者も出ているということです。まだ数は少ないようですが、そういった動きで、もう少し拡大していきたいと思います。

なかなか商工会の記載がないという厳しいご指摘でしたが、庁舎としては、藤島地域の観光拠点魅力アップ事業を商工会、或いは観光協会メインの事業にしたいというふうに考えているところです。今般の東田川文化記念館の国指定史跡指定を受けまして、Hisu花と東田川郡文化記念館を藤島の観光拠点ということで、ぜひ商工会、観光協会等に頑張っていて、魅力ある事業発信をしていきたい。そのためにはもちろん商工会、観光協会とも協議を重ね、具体的にどういうものができるか、或いはどういうことをしたいかを聞き取りしながら、具体的な計画づくりをやっていきたいと考えておりますので、この部分で読んでいただければと思います。

委員

最初、枝豆とネギの話がありましたので、実際に2019年から23年までの間、売り上げ販売額はどういうふうに伸びているのか、若しくは下がっているのか、その辺も知りたいなと思いましたし、それを踏まえて2024年から28年の素案にぜひ生かしていただきたい

と思ったところです。

それから、観光協会と商工会に期待するということでありましたので、ぜひ予算をいっぱい頂けるだろうと汲み取ったところです。よろしくお願いします。

委員

たがわ農協としても、将来的には北部、南部支所と区域を分けて考えていきたいということです。藤島から立川、余目、三川は特に水田地帯ということで、大豆を転作作物ということで奨励したい。その中で700ヘクタールほどの乾燥施設を藤島の南部に作って、その他に今までのライスセンターのカントリー2ヶ所で乾燥を受け入れて全体的には1,150ヘクタールの大豆生産を考えております。

あと、羽黒、櫛引、朝日、温海方面は山間地ということで、果樹、稲作はもとよりですけども園芸に力を入れていただくという将来的な考えでいます。現状、藤島では水稻の集積がどんどん進んでいるので、園芸まではなかなか手が出せないのかなと思います。園芸作物を頑張っている農家もありますけれども、若い人達が継続してくれないところが課題です。収入面で魅力があるということだと思いますが、特に枝豆は鶴岡のだだちゃ豆の価格からずっとかけ離れていると言われていています。たがわ農協では食味計を入れ、土壌改良等を行いながら、鶴岡のだだちゃ豆に負けない枝豆を生産していくことで頑張っておりますのでよろしくお願いします。

委員

暮らしを守るということで、現行の計画の中では、例えば自立分散型インフラ整備の推進と、その中に高速交通に対応する広域ネットワークの整備促進というようなことも含めて、今の新しい素案とは違った項目で政策の中に入っているわけです。これは合併前から鶴岡－藤島間道路、今は南部中央道路という名前に変えて、藤島挙げての運動を期成同盟会でやっているわけですが、新しいこれからの計画の中には入らないのですか。

成田支所長

今年は期成同盟会で動き方を強化しておりまして、県も本所の所管課も含めて勉強会などを開催して、実現の可能性に向けて今までよりもアクションを大きくしていこうという動きになっています。

計画に具体的にどこまで盛るかというのは、今後検討させていただくことになると思います。

委員

地域振興計画というのは、藤島地域にとって最も基本となる計画になるわけです。その中に今まで一生懸命頑張ってきた運動がここで無くなる、文章表現が消えるということ

は、これからの計画としておかしいのではないかと思います。

これは引き続き粘り強く取り組んでいく課題だと思いますので、そこはちょっと検討してください。

委員

暮らしを守るの（２）子育て世代から選ばれるための支援の充実についての「安心して子育てできる地域を目指した環境整備について」の箇所は、そもそもお子さんがいらっしゃる人たち世代のことだと思います。

私は婚活の事業もしているもので気になるのが、他県の人と交流すると、市独自でやっている婚活の事業やイベントに対する手厚いサポートとかがあるんです。藤島が鶴岡市になって何か薄まってしまっていますが、藤島として少子化対策の事業は何か無いのでしょうか。

成田支所長

具体的な庁舎としての婚活事業は考えておりませんが、例えばイルミネーションを２人で歩いてもらうイベントとか、観光協会を巻き込んで面白そうなことを考えられればと思います。婚姻数を増やしていくことも少子化対策ですし、文厚エリアの魅力付けの部分でも頑張っていければと思っています。

萬年会長

子育ては子供もいなければどうしようもない。この基本となる結婚をしてもらうための施策が必要なわけですが、去年一昨年前に結婚相談をやっている NPO 法人の方々から説明していただいたこともあります。この何年かでまとめたのが 10 件ぐらいだったので少ないなという感想でした。今、マッチングアプリだとかいろいろありますけども、そういう方向性でくっつけていけるものが何かあってもいいと思います。そういう施策も鶴岡市全体ではなくて、地域として何か取り組むものもあってもいいと考えていますので、ご検討いただければと思います。

委員

学校改築に合わせて魅力ある学校づくりをすることによって、いろんな方々が藤島に来ていただける形も取れると感じていますので、そこは市教委に大いにご期待申し上げたいと思います。

Hisu 花について四季を通じた魅力発信がありますが、地域の子供を育てる親御さんたちの声としては、あそこをもうちょっと子供たちが使えるような場所にできたらいいのではないかと声をよく聞きます。目的がちょっと違ってくるのかもしれませんが、四季を通じてということを見ると、イルミネーションの期間や藤が咲いている時は

いいんですが、期間が非常に短いです。残りの期間は、つるがモジャモジャして見栄え的には難しいと思うので、もうちょっと子供たちが自由に遊べるような空間としても利用ができたらいと思います。プランターに花を植えたりして綺麗に飾るのはわかるんですが、逆に子供たちが走り回る姿が見られない場所にもなってしまっているのも、その辺のことをご検討いただけたらなと思っているところです。

委員

今、Hisu 花でイルミネーションをやっていますけれど、ぽっぽの湯でもイルミネーションパート 1 として、商工会の方からもお手伝いを頂いて、資材を買って 11 月 20 日をまでに準備をしています。1 月に Hisu 花が終わりますと、その資材を借りて 3 月まで大々的にやっていますので、皆さんぜひお湯に入りながらご覧になってください。自慢ではないですが綺麗です。建物全体とかイルミネーションも、あまりお金をかけないで頑張っておりますのでよろしくお願いします。

萬年会長

校長先生から何か連携の関係でもお話あったら頂きたいと思います。

坂井校長

これまでコロナ禍で一般の公開をしておりませんでしたけれども、明日あさっては庄農祭ということで文化祭、今年は制限なく、一般の方にぜひ来ていただきたいと思います。

先ほどお話ししていたいろいろな連携の部分について、地域の方々からも教材の作成とか、明日もご協力を頂いてやる予定です。天気がちっと心配な部分ではありますが、ぜひお時間があれば、土曜日の来校をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

萬年会長

一番最後にある地域防災の強化について、いろいろな課題が前回も渡前地区の方から挙がっています。

この前の元町 6 町内会の要望会において、私の方から挙げさせていただいたんですけれども、藤島川の西側、渡前・新町・駅前・新屋敷・平形の方の拠点がないので、川でストップをかけられた場合、どこからも支援を受けられない可能性があります。資材は活動センターや庁舎の方に全部ありますので、そこから搬入するには時間を要するだろうし、洪水ならまだいいですけども、大規模な地震が発生すると交通網が寸断され、ライフラインもストップするような状況下で、支援を受けるまでの時間をどうしていくかは大きな課題になると思うんです。

その場合、資材等や場所的なものが非常に不足する形になってきますので、拠点の機能

充実ということがあって、これは活動センターとかが中心になるのはわかるんですけども、藤島川の西の部分についても頭に置いていただいて、具体的な方向で検討整備して頂ければと思います。町内会で資材をどうしても揃えざるをえなくて、今年も少し揃えましたが、それではちょっと追いつかない状態です。これは人数的に見て活動センターにある資材でも間に合わないような状況だと思います。

ベッドとかは二次的なもので、それよりも最初に避難してきた人のために喫緊に必要なものについてある程度整備していただく。水やトイレとかは、本所あるいは庁舎から持ってくるにしても間に合わないので、実際に即した形での資材整備を考えて、具体的に進めていって頂きたいなと考えております。

委員

前回の懇談会の中で、委員から体育施設だとか公共施設の使用できないところが多数見受けられるということでした。体育施設は教育委員会の所管ということで、限りある予算の中で手当てしていると思うんですけども、前回の話はどういうふうにして解決しましたか。

成田支所長

所管がスポーツ課で、スポーツ課に連絡をさせて頂きました。自治振興協議会からも要望が出ておりますので、その辺はスポーツ課に伝えさせて頂きました。

委員

ということは、まだそのままということですか。

成田支所長

はい。そうだと思います。

委員

これでは、住みよい藤島だとか、若い人が来て欲しいだとか立派なことを言っても、日常、住民が使うトイレが三つあるうち一つ使えないとか、五つあるうち二つ使えないとか、そういう状況は改善してもらわないと困ると思いますので、その辺はまず早急に対応して頂くようにお願いします。

永寿教育部長

ありがとうございます。事務的な話として、私の耳にも入ってこないところもありますので、状況を確認しました後、その限られた予算の中で、今本当にしなければならないものは何かということをちゃんと見て対応していかなければならないと思いますので、私の

方からも確認いたします。

萬年会長

もしよろしければ、第3番目についてはこれで終わりたいと思います。この3番目につきましては、次回の第4回の地域振興会議におきましても、最終案について再度目を通していただくことになりますので、よろしくお願いをいたします。

以上をもちまして、本日の協議を終了させていただきます。

議事の進行へ協力いただきまして本当にありがとうございます。

小林総務企画課長

スムーズな進行ありがとうございました。また委員の皆さんからは、多くの貴重な意見を頂きまして誠にありがとうございました。

(4)のその他でございますが、事務部から特にございませんが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

(なしの声)

長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。これをもちまして、令和5年度第3回藤島地域振興懇談会を終了させていただきます。